

【1-1. テラコッタ粘土】

材料：

テラコッタ粘土

道具：

割り箸・竹串・爪楊枝、粘土ペラ

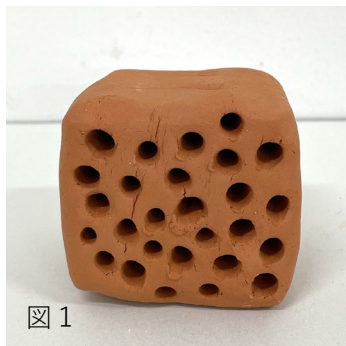


図1

- 1：粘土中の空気を抜き、硬さにムラがなくなるように粘土をよく練ります。空気が含まれていると、作品の焼成中に爆発する恐れがあります。
- 2：基本的な形としては図1にあるように一面のみに小さい穴を棒などを使って開けます。穴の大きさはランダムで構いませんが、3～7mmくらいを目安にすると良いでしょう。
- 3：カタチは自由です。ただし穴の空いた面が地面に対して直角に正面になるように、また、安定して自立するように気をつけてください。
- 4：作った作品は、よく乾燥させてから、陶芸窯で750度で1時間30分ほど焼成します。その際に急に温度を上げず、ゆっくりと上げてください。



【1-2. 木材】

材料：いろいろな木材

(枝や建材の残りなどある程度の塊感のあるもの)

道具：

3～7mmくらいまでの木工用ドリル刃、
電動ドリルドライバー、紙やすり
万力やクランプなど木材を固定できる道具

- 1：用意した木材を任意の大きさにカットします。その際あまり小さくなりすぎないように注意。小さくなりすぎると固定しにくくなります。
- 2：穴を開ける位置を鉛筆などで印をつけます。穴同士が近くなりすぎないように気をつけてください。近すぎると穴を開ける際に穴同士が接近してしまい真っ直ぐ開けられないことがあります。
- 3：穴を開けたところはバリが出ているので、紙やすりなどを使って滑らかにしてください。



【1-3. 竹とよしず】

材料：

竹、よしず（すだれをばらしたもの）

道具：

ノコギリ、剪定バサミなど

- 1：太めの竹を節を片側だけ残して20cm程度の長さののこぎりでカットします。
- 2：細い竹（穴の径が1-2cm）を、1で作った竹筒の長さに合うようにノコギリでカットします。よしずも同様に剪定ばさみでカットします。
- 3：1で作った竹筒に、2で作った竹などを詰めていきます。横にして出てこない程度に詰めてください。
- 4：筒の中に雨が落ちてこないよう、簡単な庇をつけてもよいです。設置するときは横倒しにするので、転がらないように底面を削ってもよいでしょう。横倒しにしたときに筒が斜め上を向くと雨水が入ってしまいますし、斜め下を向くと中身が落ちてきてしまいます。



いろいろな
インセクトホテル



【1-4. 冬ごもり用】

材料：

野外で手に入る枝や落ち葉など、段ボール紙、書類立てなどのA4サイズプラケース、コンテナボックス、プラダンとビニタイ（屋根用）

道具：

ハサミなど

- 1：校庭で、枝や落ち葉など巣の材料を集めます。外から持ち込むと意図せず生き物を導入してしまうので避けます。
- 2：段ボールを適切なサイズにカットして部屋割りをします。
- 3：各部屋に、集めた材料を詰めていきます。部屋ごとに特徴を変えることで、異なる虫の越冬場所として機能する場合があります。横倒しにしたときに中身が出ないように気を付けてください。
- 4：適切なサイズに切ったプラダンをビニタイでコンテナボックスに取り付け、野外に設置します。その中に作成したインセクトホテルを入れます。段ボールを使っているのでも濡れないような環境が望ましいです。



【1-5. 菰巻き】

材料：

菰、ワラ縄（2分）

道具：

縄を切るための枝切ばさみなど

- 0：菰と縄は、外来害虫を野外に拡散させないため、購入してから1年程度ビニル袋の中において虫がわからないか確認してください！（重要）
- 1：菰を巻く木を選定します。表面に凹凸が多く、日当たりがよく、あまり風にさらされない場所の木を選んでください。
- 2：菰（180×90cmくらい）を幹に巻き付けていきます。幹の太さに依りますが、何重にもできないとあまり暖かくないので虫が入りにくいかもしれません。
- 3：ワラ縄で上下2か所くらいをしばります。落ちてこない程度で大丈夫です。



【1-6. インタバルカメラによる撮影】

	機種1 インターバル撮影が可能な デジタルカメラ (RICOH WG-80)	機種2 タイムラプス専用カメラ (BRINNO TLC300)	機種3 トレイルカメラ (ハイクカムLT4G)
撮影条件	2024年12月25日11:00 - 12月26日11:00 横浜国立大学構内 (晴れ, 最高気温11.1°C, 最低気温4.8°C) SDカード32GB (新品), インターバルは30sec/1枚		
価格帯	4-5 万円程度	5-6 万円程度	8-9 万円程度
終了時刻まで 撮影できたか	× 1000枚で停止	× Daylight、Twilight、Nightの別があるが、 夜間停止のため赤外線撮影は不明	○ 25日16:35～26日6:47 まで赤外線撮影
電池	専用充電電池 →24時間後× 参考値：静止画撮影:約300枚	アルカリ乾電池 (単3×4本) →24時間後○ 参考値：約40～60日(1回/1hour)	アルカリ乾電池 (単3×12本) →24時間後○ 参考値：最大25000枚
記録媒体	-	最大128Gまで対応 勝手にOFF (終了時刻25日14:36) カードエラー 原因不明	32G (指定あり)
インターバル	10sec～99min (1秒単位)	1sec～24hour(1秒単位)	30sec, 1, 3, 5, 10, 30min, 1, 2, 3, 4, 6, 8, 12, 24hour
フォーカス	マニュアル	オート	焦点距離20cm 調整不可
ズーム	○	×	×
撮影枚数	記録は2～1000枚が上限 入れなおす必要がある	動画のみ 写真するには別に操作が必要	動画, 静止画, 動画+静止画
1枚のサイズ	2M～16Mで設定可能	不明	300～1200万画素 300万画素で1枚700Kb程度
インプレッション	手軽で便利 動画にするには操作が必要 1000枚で切れてしまうのがネック	動画なので画像の確認が楽 静止画は動画から切り出す必要がある (専用 アプリはWindowsのみ対応)	設置時に画角範囲を確認するのが難しい。 フォーカスを合わせるのが難しい。大きくて重い。 SIMカードで通信可能。赤外線撮影よい。



エントリーにはインターバル対応デジカメでインターバルと画素数を調整しながらやってみるのがオススメ。
夜間の観察にはタイムラプス専用カメラなどにステップアップ!